2026年9月 発行

ほくほくフィナンシャルグループ
Hokuhoku Financial Group, Inc.

海外事務所レポート

ベトナムのカフェ文化から見える人々の暮らし

北陸銀行 法人ソリューション部
ホーチミン駐在員事務所
トレーニー　大瀬　綾希子

１．はじめに

日本では、全国各地で統一の看板・メニュー・価格帯を掲げるカフェチェーンが多く見かけられます。どの店舗に入っても一定の品質やサービスが期待できる安心感は、日本のカフェ文化の大きな魅力の一つです。

一方、ベトナムの街を歩いていると、古い建物を改装した店、シンプルで洗練されたデザインの店、路地裏の小さな店など、個性豊かなカフェが目に入ります。ベトナムにも「ハイランズコーヒー」をはじめとする全国規模のチェーンはありますが、市場全体では独立系のカフェやバーが、店舗数、売上規模ともに大きな存在感を持っています。ベトナムのカフェは店舗ごとに内装やコンセプトが異なるだけでなく、メニューや価格帯にも幅があり、その日の気分や目的に合わせて店を選ぶ楽しさがあります。



多くのカフェ・ショップが入居する「カフェアパートメント」（筆者撮影）

２．世界有数のコーヒー大国

カフェ文化が盛んな背景には、世界有数のコーヒー生産国であることも関係しています。ベトナムはコーヒー豆の生産量で世界第2位を誇り、特に苦味が強くコクのある「ロブスタ種」の生産では世界最大級の産地として知られています。一方、中部高原のダラット周辺では、華やかな香りと爽やかな酸味が特徴の「アラビカ種」も栽培され、近年ではスペシャルティコーヒーとして国内外で注目を集めています。

また、お土産として人気の「ジャコウネココーヒー（コピ・ルアク）」もよく見かけますが、これは豆の品種ではなく、ジャコウネコの糞から採取される未消化のコーヒー豆を加工したもので、希少性の高さから高級コーヒーとして知られています。



お土産としても人気の高いベトナムコーヒー

３．カフェは「飲む場所」ではなく「過ごす場所」

実際に現地のカフェを利用して印象的だったのは、コーヒーそのもの以上に、カフェという空間の使われ方です。

ノートパソコンで仕事をする人、グループ課題に取り組む大学生、談笑する友人同士、商談や打ち合わせをする人々など、ベトナムのカフェでは各人が様々なシチュエーションで利用することが当たり前となっています。一杯のドリンクを注文すれば長時間でも気兼ねなく過ごせる店が多く、無料で使えるWifiや電源コンセントも充実しています。カフェは単なる飲食店ではなく、人々の日常を支える「居場所」として機能しています。





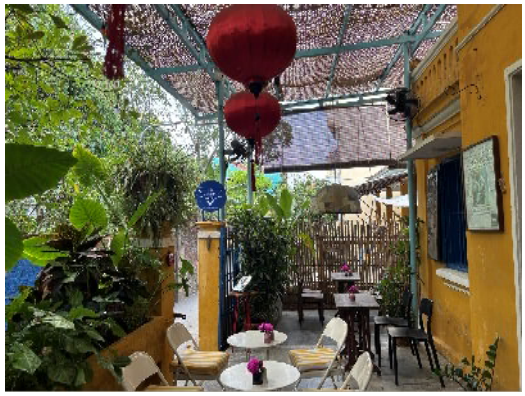
カフェで過ごす人々

一方、日本でもカフェはくつろぎの場として親しまれています。クロス・マーケティングが2025年に日本全国の20歳～69歳の男女1,100人を対象に行った調査では、コーヒーショップの利用動機として「一人の時間をゆっくり過ごす」、「お店の雰囲気やコーヒーの香りが好き」といった回答が上位に挙がりました。

日本では「休憩」や「一人時間」にカフェに立ち寄る人が多いのに対し、ベトナムでは「人と会う」、「仕事をする」、「勉強する」といった、より生活に密着した用途が多い印象を受けました。

４．おわりに

ベトナムでは、コーヒーは単なる嗜好品ではなく、日々のコミュニケーションや仕事、学習を支える日常インフラの一部であり、カフェは唯一無二の空間を与えてくれる大切な存在となっています。コーヒーを片手に、店舗ごとに異なる雰囲気を楽しみながら、また一つベトナムの魅力を発見しました。



開放的なオープンテラスカフェ

＜ご注意＞
文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。記載内容についてはご利用者の判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

発行：北陸銀行 法人ソリューション部 グローバルビジネス推進室
〒930-8637 富山市堤町通り1-2-26 TEL (076)423-7111